

2024年度 学科別授業科目一覧表（実務経験表記あり）

課程：工業専門課程

学科：高度情報システム科

NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須・選択	講義・実習	実務経験
33	Python I	3	60	3	必修	実習	有
56	Java演習 II	3	60	3	必修	実習	有
57	Java文法 II	3	30	2	必修	講義	有
58	モバイルアプリケーション開発	3	60	3	必修	実習	有
59	UML I	3	30	2	必修	講義	有
60	UML II	3	30	2	必修	講義	有
61	CCNA VI	3	30	2	必修	講義	有
62	CCNA VII	3	60	3	必修	実習	有
63	CCNA VIII	3	30	2	必修	講義	有
64	CCNA IX	3	60	3	必修	実習	有
65	LPIC/LinuC対策 I	3	30	2	必修	講義	無
66	データサイエンス基礎 I	3	60	3	必修	実習	無
67	データサイエンス基礎 II	3	60	3	必修	実習	無
68	セキュリティ監査	3	30	2	必修	講義	有
69	事例研究	3	60	3	必修	実習	有
70	オペレーションズリサーチ II	3	30	2	必修	講義	無
71	応用情報対策	3	30	2	必修	講義	無
72	応用数学 I	3	30	2	必修	講義	無
73	応用数学 II	3	30	2	必修	講義	無
74	電気基礎	3	30	2	必修	講義	無
75	応用英語 I	3	30	2	必修	講義	有
76	応用英語 II	3	30	2	必修	講義	有
77	一般常識 I	3	30	2	必修	講義	無
78	一般常識 II	3	30	2	必修	講義	無
79	プレゼンテーション	3	30	1.5	必修	実習	有
80	就職対策 I	3	30	2	必修	講義	有
81	就職対策 II	3	30	2	必修	講義	有
82	企業会計 II	3	30	2	必修	講義	有
83	体育実習 III	3	30	1.5	必修	実習	無

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	Python I	仲 智弘	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Pythonの基本文法を習得する。

【講義概要】

文法解説とプログラム演習。

回	授業計画及び学習の内容
1	言語の基礎
2	データ型
3	関数
4	クラス
5	条件分岐、繰り返し
6	繰り返し、内包表記
7	ここまでのまとめ
8	継承、インターフェース、Mixin
9	デコレータ、property、クラス変数、クラスメソッド、スタティックメソッド
10	例外処理
11	スコープ、import、PyPI
12	mypy、Optional、ラムダ、クロージャ
13	ジェネレータ
14	総復習
15	総復習

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	0%	0%	20%	0%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。

【教科書・参考文献】

-

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	Java演習Ⅱ	仲 智弘	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

- ・ Java言語の基本文法を修得
- ・ Javaライブラリを使用したWebアプリ制作
- ・ JavaフレームワークSpringBootの習得

【講義概要】

- ・ 基本文法を確認するプログラム演習
- ・ ライブラリを使用したプログラム演習
- ・ フレームワークを使用したプログラム演習

回	授業計画及び学習の内容
1	匿名クラス / ラムダ式 / メソッド参照、コンストラクタ参照
2	高階関数 / ストリーム / enum
3	リフレクション / アノテーション / Web フレームワーク / GUI
4	Spark Framework / H2 database / Thymeleaf / Swing 連携
5	同上
6	同上
7	中間試験
8	SpringBoot 演習
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
13	同上
14	同上
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	80%	0%	0%	20%	0%	100%

(補足)

- ・ 成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・ 原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・ レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。

【教科書・参考文献】

Spring Boot 3 プログラミング入門

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	Java文法Ⅱ	仲 智弘	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

- ・ Java言語の基本文法を修得
- ・ Javaライブラリを使用したWebアプリ制作
- ・ JavaフレームワークSpringBootの習得

【講義概要】

- ・ 文法の解説
- ・ ライブラリ使用方法の解説
- ・ フレームワーク使用方法の解説

回	授業計画及び学習の内容
1	匿名クラス / ラムダ式 / メソッド参照、コンストラクタ参照
2	高階関数 / ストリーム / enum
3	リフレクション / アノテーション / Web フレームワーク / GUI
4	Spark Framework / H2 database / Thymeleaf / Swing 連携
5	同上
6	同上
7	中間試験
8	SpringBoot 演習
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
13	同上
14	同上
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	80%	0%	0%	20%	0%	100%

(補足)

- ・ 成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・ 原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・ レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。

【教科書・参考文献】

Spring Boot 3 プログラミング入門

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	モバイルアプリケーション開発	仲 智弘	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Android での実践的なプログラミング技術の習得

【講義概要】

Android アプリを制作する。

回	授業計画及び学習の内容
1	開発環境構築、Android Studioについて、Hello World アプリ作成
2	イベントドリブン
3	ListView、ダイアログ
4	ConstraintLayout
5	画面遷移、Intent
6	オプションメニュー、コンテキストメニュー
7	データベースアクセス
8	データベースアクセス
9	非同期処理
10	メディア再生
11	バックグラウンド処理、通知機能
12	地図アプリとの連携
13	カメラアプリとの連携
14	マテリアルデザイン
15	リサイクラービュー

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	60%	0%	0%	40%	0%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。

【教科書・参考文献】

基礎&応用力をしっかりと育成！ Androidアプリ開発の教科書 なんちゃって開発者にならないための実践ハンズオン

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	UML I	潮 達也	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

到達目標はシステム開発の実践の場で要件定義、基本設計、詳細設計、プログラム設計等でUMLを活用できるようにすること。テーマはAstah Professionalを使いシステム要件に応じたダイアグラムが作成出来るようになること

【講義概要】

実習科目であるのでAstah Professionalの統合環境を使いこなし、基本表記から応用した表記までオブジェクトをどう捉えどう表現するかが実践出来るようにポイントを捉えて、描けるように学習していきたい

回	授業計画及び学習の内容
1	UMLとは オブジェクト指向とは Astah professionalツールの使用法とダイアグラムの種類の説明
2	ユースケース図 特徴 表記ルール アクターとユースケース オブジェクト間の関係
3	ユースケース図 関連 包含 拡張 汎化 演習問題(基本問題)
4	ユースケース図 演習問題(応用問題 実践問題 解放の手引き)
5	オブジェクト図 特徴 表記ルール 属性 関係 インスタントとクラス
6	オブジェクト図 演習問題(基本問題 応用問題 解放の手引き)
7	中間試験
8	クラス図 特徴 表記ルール 属性 操作 可視性 多重度 ロール クラスの関係
9	クラス図 関連 複数関連 集約 依存 汎化 コンポジション 実現 抽象クラス
10	クラス図 演習問題(基本問題 応用問題)
11	クラス図 演習問題(応用問題 実践問題)
12	シーケンス図 特徴 表記ルール 同期メッセージ 非同期メッセージ リプライメッセージ
13	シーケンス図 ロストメッセージ ファウンドメッセージ 実行指定
14	シーケンス図 演習問題(基本問題 応用問題 実践問題)
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計
割合	60%・15%	10%	5%	10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業で、プロマネ、リーダー、SEとして数々の開発に従事中

【教科書・参考文献】

技術評論社 かんたんUML入門 [改訂2版]

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		3年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	UML II		潮 達也	有	2単位 30時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

到達目標はシステム開発の実践の場で要件定義、基本設計、詳細設計、プログラム設計等でUMLを活用できるようになること。テーマはAstah Professionalを使いシステム要件に応じたダイアグラムが作成出来るようになること

【講義概要】

前期からの継続で、ダイアグラムの章ごとに基本的表現方法を実習し、基本演習問題から応用演習問題を行い理解度を把握、その演習問題のポイントと解法を解説し、ダイアグラムの表記法とその使用法をマスターする

回	授業計画及び学習の内容	
1	シーケンス図	制御構造化表現の表記法 条件分岐 条件判断 繰り返し break パラレル クリティカル
2	シーケンス図	基本演習問題 応用演習問題 演習の解法・解説
3	コミュニケーション図	ライフライン表記法 メッセージの種類・表記法
4	コミュニケーション図	の表現する相互作用 基本演習問題 応用演習問題 演習の解法・解説
5	ステートマシン図	基本的表記法 状態遷移の表記法 状態の階層化 疑似状態 状態再利用 拡張の表記
6	ステートマシン図	基本演習問題 応用演習問題 演習の解法・解説
7	中間試験	
8	アクティビティ図	基本的表記法 並行処理の表記法 表記上の注意点
9	アクティビティ図	基本演習問題 応用演習問題 演習の解法・解説
10	パッケージ図	基本的表記法 パッケージ図の描き方 表記上の注意点
11	コンポーネント図	基本的表記法 描き方 表記上の注意点
12	配置図	基本的表記法 配置図の描き方 表記上の注意点
13	合成構造図	基本的表記法 合成構造図の描き方 合成構造図の注意点
14	総合演習1	総合的基本問題 総合的演習問題
15	期末試験	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%	10%	10%	10%		100%

(補足)
・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業で、プロマネ、リーダ、SEとして数々の開発に従事中

【教科書・参考文献】

かんたんUML入門 技術評論社

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	CCNA VI	坂井 剛	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ベンダー試験「CCNA Routing and Switching」に準拠したネットワークに関するスキルの習得を目指す。CCNAの資格取得が最終目的ではなく、講義を通じたネットワーク技術者としての総合的な能力育成を目標としている。そのため、CCNA試験範囲外であってもネットワーク技術者として重要と思われる項目は講義内で取り扱う。

【講義概要】

「CCNAv7: Enterprise Networking, Security, and Automation」のコースに従い学習を進める。本コースは3年生の前期後期にわたって実施され、前期ではコース中盤までを実施。

回	授業計画及び学習の内容
1	ネットワーク基礎知識の復習
2	ダイナミックルーティングプロトコル概要 (RIP、OSPF、EIGRP、BGP)
3	シングルエリアOSPF
4	マルチエリアOSPF
5	OSPFによるネットワークルーティング演習
6	ネットワーク経由のサイバー攻撃
7	ネットワークセキュリティの基礎と技術
8	中間試験
9	IPv4 ACL
10	IPv4 NAT
11	ACLとNATによるセキュリティ対策
12	IPv4からIPv6への移行と対応
13	WANの概要と構築技術
14	総合復習と期末対策
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	70%			30%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学院出身後、8年間企業においてSEとして業務に携わる。その後2010年より教員として勤務。CCNAインストラクターの資格所有。

【教科書・参考文献】

『シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集 [対応試験] 200-301』 (翔泳社: ISBN9784798165776)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		3年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	実習	CCNA VII		坂井 剛	有	3単位 60時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

ベンダー試験「CCNA Routing and Switching」に準拠したネットワークに関するスキルの習得を目指す。CCNAの資格取得が最終目的ではなく、講義を通じたネットワーク技術者としての総合的な能力育成を目標としている。そのため、CCNA試験範囲外であってもネットワーク技術者として重要と思われる項目は講義内で取り扱う。

【講義概要】

「CCNAv7: Enterprise Networking, Security, and Automation」のコースに従い学習を進める。本コースは3年生の前期後期にわたって実施され、前期ではコース中盤までを実施。

回	授業計画及び学習の内容
1	ネットワーク基礎知識の復習
2	ダイナミックルーティングプロトコル概要 (RIP、OSPF、EIGRP、BGP)
3	シングルエリアOSPF
4	マルチエリアOSPF
5	OSPFによるネットワークルーティング演習
6	ネットワーク経由のサイバー攻撃
7	ネットワークセキュリティの基礎と技術
8	中間試験
9	IPv4 ACL
10	IPv4 NAT
11	ACLとNATによるセキュリティ対策
12	IPv4からIPv6への移行と対応
13	WANの概要と構築技術
14	総合復習と期末対策
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計
割合	70%			30%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学院出身後、8年間企業においてSEとして業務に携わる。その後2010年より教員として勤務。CCNAインストラクターの資格所有。

【教科書・参考文献】

『シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集 [対応試験] 200-301』 (翔泳社: ISBN9784798165776)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	CCNA VIII	坂井 剛	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ベンダー試験「CCNA Routing and Switching」に準拠したネットワークに関するスキルの習得を目指す。CCNAの資格取得が最終目的ではなく、講義を通じたネットワーク技術者としての総合的な能力育成を目標としている。そのため、CCNA試験範囲外であってもネットワーク技術者として重要と思われる項目は講義内で取り扱う。

【講義概要】

「CCNAv7: Enterprise Networking, Security, and Automation」のコースに従い学習を進める。本コースは3年生の前期後期にわたって実施され、後期ではコースの残りとしてFinalExamと実技試験を実施。

回	授業計画及び学習の内容
1	VPNの概要と構成技術
2	IPsecの概要
3	IPsecを構成する技術
4	IPv6とIPsecによるセキュアなネットワーク設計
5	QoSの概要
6	QoSを構成する技術
7	中間試験
8	ネットワーク管理
9	要件に従ったネットワーク設計
10	ネットワークトラブルシューティング
11	ネットワーク仮想化技術
12	ネットワーク自動化
13	総合復習演習
14	FinalExam、SBA（実技試験）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%			30%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学院出身後、8年間企業においてSEとして業務に携わる。その後2010年より教員として勤務。CCNAインストラクターの資格所有。

【教科書・参考文献】

『シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集 [対応試験] 200-301』 (翔泳社: ISBN9784798165776)

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		3年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	実習	CCNA IX		坂井 剛	有	3単位 60時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

ベンダー試験「CCNA Routing and Switching」に準拠したネットワークに関するスキルの習得を目指す。CCNAの資格取得が最終目的ではなく、講義を通じたネットワーク技術者としての総合的な能力育成を目標としている。そのため、CCNA試験範囲外であってもネットワーク技術者として重要と思われる項目は講義内で取り扱う。

【講義概要】

「CCNAv7: Enterprise Networking, Security, and Automation」のコースに従い学習を進める。本コースは3年生の前期後期にわたって実施され、後期ではコースの残りとしてFinalExamと実技試験を実施。

回	授業計画及び学習の内容
1	VPNの概要と構成技術
2	IPsecの概要
3	IPsecを構成する技術
4	IPv6とIPsecによるセキュアなネットワーク設計
5	QoSの概要
6	QoSを構成する技術
7	中間試験
8	ネットワーク管理
9	要件に従ったネットワーク設計
10	ネットワークトラブルシューティング
11	ネットワーク仮想化技術
12	ネットワーク自動化
13	総合復習演習
14	FinalExam、SBA（実技試験）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%			30%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学院出身後、8年間企業においてSEとして業務に携わる。その後2010年より教員として勤務。CCNAインストラクターの資格所有。

【教科書・参考文献】

『シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集 [対応試験] 200-301』 (翔泳社: ISBN9784798165776)

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	LPIC/LinuC対策 I	平塚 悠生	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

Linux Essentialsを取得する

【講義概要】

CentOSの基本的な操作を習得していることを前提として、Linux Essentials試験対策に特化した知識の整理を行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	パス、ユーザ、コマンドの基本書式
2	シェル変数と環境変数
3	ファイルとディレクトリの操作
4	テキストファイルの操作
5	アーカイブの作成展開、圧縮と解凍
6	ここまでの復習
7	中間試験
8	テキストエディタvi、スクリプトの基本
9	各種ディレクトリの役割
10	ユーザとグループの作成削除編集
11	ファイルとディレクトリのパーミッション編集
12	特殊なパーミッション
13	Linuxのディストリビューションとライセンス
14	ここまでの復習
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は17年程度。

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	データサイエンス基礎 I	鹿子木 範昭	無	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

データサイエンスの基礎的理解および知識の習得とその適用

【講義概要】

主にEXCELを使ったデータ分析・解析を中心に学ぶ。統計基礎知識についても解説していく。

回	授業計画及び学習の内容
1	統計学とデータサイエンス
2	社会におけるデータ・AIの利活用
3	EXCELで始めるデータ分析の基本（1）
4	EXCELで始めるデータ分析の基本（2）
5	EXCELVBAの活用（1）
6	EXCELVBAの活用（2）
7	中間試験
8	EXCELを使ったシミュレーション
9	さまざまな統計分析（1）
10	さまざまな統計分析（2）
11	さまざまな統計分析（3）
12	さまざまな統計分析（4）
13	実際の公的データを使ったデータ分析
14	実際のデータサイエンスで起こる問題
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	60%	30%		10%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学学部、大学院で20年以上教育に従事

【教科書・参考文献】

データサイエンス入門 Excelで学ぶ統計データの見方・使い方・集め方（オーム社）

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	データサイエンス基礎Ⅱ	鹿子木 範昭	無	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

実際の現場ではどのようにデータ分析が行われるのかを実習を通して理解する

【講義概要】

データの加工方法、機械学習、最適化技術、AI技術についてマンンでいきます。

回	授業計画及び学習の内容
1	Pythonの基本的なプログラミング
2	Webからの注文数を分析する
3	小売店のデータ加工を行う
4	顧客の全体像を把握する
5	顧客の行動を予測する
6	顧客の退会を予測する
7	中間試験
8	物流の最適ルートをコンサルティングする
9	ロジスティクスネットワークの最適設計を行う
10	数値シミュレーションで消費者行動を予測する
11	潜在顧客を把握するための画像認識
12	アンケート分析を行うための自然言語処理
13	深層学習に挑戦する
14	期末試験
15	1/0

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%	20%		10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学学部、大学院で20年以上教育に従事

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		3年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	セキュリティ監査		久良知 健	有	2単位 30時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

企業における内部監査を理解し、情報セキュリティ監査制度の知見を得て、情報セキュリティ監査の基礎知識を習得することを目標とする。

【講義概要】

教科書をベースに情報セキュリティ内部監査を説明し、Web情報をベースに情報セキュリティ監査制度を追加で説明する。

回	授業計画及び学習の内容
1	内部監査とは
2	情報セキュリティ内部監査の位置づけと内部監査人の必要性
3	あらためて情報セキュリティの基礎を学ぶ
4	リスクマネジメント
5	情報セキュリティ監査制度
6	情報セキュリティ監査制度：監査基準
7	中間試験
8	情報セキュリティ監査制度：管理基準
9	情報セキュリティ内部監査組織の整備、監査の効率的な進め方
10	監査手続き
11	監査リスクと品質管理
12	情報セキュリティ監査の実施手順：実施計画、監査実施、意見形成
13	情報セキュリティ監査の実施手順：監査報告、フォローアップ、品質管理
14	技術的検証、技術的検証と監査との関係、全体のまとめ
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	50%			50%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

- (1) 銀行でシステム開発、情報セキュリティ、監査部門等（通算約25年）、
- (2) 情報セキュリティ専門会社でコンサルタント、CISO等（通算約6年）、
- (3) 国会の事務局で情報セキュリティ、システム部門等（通算約3年）の実務経験有り。

【教科書・参考文献】

情報セキュリティ内部監査の教科書 改訂三版(インプレスR&D)
<http://www.meti.go.jp/policy/netsecurity/is-kansa/>

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	実習	事例研究	仲 智弘	有	3単位 60時間

【授業の到達目標及びテーマ】

実践的なプログラミング技術を身に付ける。

【講義概要】

解決が必要な課題を見つけ、それを解決するアプリやシステムを提示する。

回	授業計画及び学習の内容
1	課題の発見、提案
2	同上
3	課題解決方法の検討、提案
4	同上
5	課題解決するアプリやシステムの検討、提案
6	同上
7	同上
8	検討したアプリやシステムの制作
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
13	同上
14	制作物の発表
15	同上

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	60%	0%	0%	40%	0%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。

【教科書・参考文献】

-

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 必修	講義	オペレーションズリサーチⅡ	阿部 潤子	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

PERT・CPMと在庫管理について具体的に学ぶ。これらは生産システムを管理する際に重要で、実用性の高いものであることを理解する。多くの例題や問題を解くことで、活用できることをめざす。

【講義概要】

PERT(日程計画の図式化)の講義と演習の後、日程短縮の方法(CPM)を講義し、演習問題を解く。最適在庫量について学び、演習問題を解くことにより、在庫管理の方法を習得する。

回	授業計画及び学習の内容
1	PERTの目的を理解する。作業リストに従って矢線図を描くことを学ぶ。
2	結合点時刻とクリティカルパス最早結合点時刻と最遅結合点時刻について学ぶ。
3	最早(最遅)開始時刻と最早(最遅)終了時刻、総(自由)余裕時間について学ぶ。
4	各作業の作業費用の増加が一律の場合に、日程を短縮する方法を学ぶ。
5	各作業の費用勾配を考慮して、最少の費用で日程を短縮する方法を学ぶ(CPM1)。
6	各作業の費用勾配を考慮して、最少の費用で日程を短縮する方法を学ぶ(CPM2)
7	中間試験(筆記)
8	在庫にかかる費用から、最適在庫量の必要性、在庫管理の重要性を理解する。
9	一定需要のもとでの最適発注量、発注費用、在庫維持費用、EOQ公式について学ぶ。
10	不確定需要のもとでの最適発注量、品切れ費用、過剰在庫費用の求め方について学ぶ。
11	定量発注方式による在庫管理、および発注量と発注点について学ぶ。
12	定期発注方式による在庫管理、および発注間隔と在庫水準について学ぶ。
13	安全在庫、ABC分析について学ぶ(1)。
14	安全在庫、ABC分析について学ぶ(2)。
15	期末試験(筆記)

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他()	合計
割合	80%		15%	5%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

大学、大学院にて物理学を専攻し、修士号を取得。1985年より東京電子専門学校で数学関連の教科を教え始め、現在に至る。

【教科書・参考文献】

情報処理基礎講座8工業(水原邦保著・マグロウヒル) 初等ORテキスト(OR演習部会編・日科技連)

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎専門 必修	講義	応用情報対策	井元和彦	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

情報処理技術の応用的知識・技能を獲得し、応用情報処理技術者試験の合格を目指す。

【講義概要】

応用情報処理技術者試験の過去問演習を通じて、合格に必要なスキルを身に着ける。

回	授業計画及び学習の内容
1	午前対策 ネットワーク
2	午後対策 ネットワーク
3	午前対策 データベース
4	午後対策 データベース
5	午前対策 情報セキュリティ
6	午後対策 情報セキュリティ
7	午前対策 基礎理論・コンピュータシステム
8	中間試験
9	午前対策 アルゴリズムとプログラミング
10	午後対策 プログラミング
11	午前対策 プロジェクトマネジメント
12	午前対策 サービスマネジメント、システム監査
13	午後対策 サービスマネジメント
14	午後対策 システム監査
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

本校専任講師として、資格対策、セキュリティ、ハードウェア、プログラミングなどの授業を担当

【教科書・参考文献】

なし

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	応用数学 I	氏原 真代	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

数学の基礎から、微分積分学や微分方程式など、高度な応用数学を身につけさせることを目的とする。

【講義概要】

数学の基礎から、微分積分学や微分方程式など、高度な応用数学を学習する。また、物理数学を含めた物理的な考えなどもあわせて学習する。

回	授業計画及び学習の内容
1	数と関数 数の性質・関数とグラフ・偶関数と奇関数
2	指数・有効数字 指数の取り扱いや有効数字の扱い
3	指数と対数（1） 指数関数・指数法則
4	指数と対数（2） 対数関数・対数の性質
5	三角関数（1） 弧度法・三角比・重要な公式
6	関数・指数・対数・三角関数のまとめ 演習問題
7	中間試験
8	三角関数（2） 加法定理・加法定理から導かれる公式
9	三角関数（3） 加法定理・三角関数の合成
10	極限值（1） 極限値の性質
11	極限值（2） 指数関数の極限值・三角関数の極限值
12	極限值（3） 接線と法線
13	極限值（4） 導関数
14	三角関数・極限値のまとめ 演習問題
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

本校診療放射線学科で専任講師として20年以上、数学・物理学・電気実験等を担当し、その後非常勤講師として、12年ほど独立行政法人教育センターや各種専門学校等で、数学・物理学・電気実験等を担当

【教科書・参考文献】

授業時にプリント配布・抗議の際に紹介

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	応用数学Ⅱ	氏原 真代	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本的な電気の考え方、公式を理解する。公式を使った計算ができるようになり、基礎学力を身につけさせることを目的とする。

【講義概要】

数学の基礎から、微分積分学や微分方程式など、高度な応用数学を学習する。また、物理数学を含めた物理的な考えなどもあわせて学習する。

回	授業計画及び学習の内容
1	微分（1） 微分公式
2	微分（2） 合成関数の微分法
3	微分（3） 指数・対数関数の微分
4	微分（4） 高次導関数・マクローリン展開
5	不定積分（1） 積分の公式・置換積分
6	微分・不定積分のまとめ 演習問題
7	中間試験
8	不定積分（2） 積分の公式・部分積分
9	定積分（1） 定積分の性質
10	定積分（2） 置換積分
11	定積分（3） 部分積分
12	積分 面積
13	微分方程式 1階微分方程式（変数分離形・同次形・線形）
14	積分のまとめ 演習問題
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

本校診療放射線学科で専任講師として20年以上、数学・物理学・電気実験等を担当し、その後非常勤講師として、12年ほど独立行政法人教育センターや各種専門学校等で、数学・物理学・電気実験等を担当

【教科書・参考文献】

授業時にプリント配布・抗議の際に紹介

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	電気基礎	氏原 真代	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本的な電気の考え方、公式を理解する。公式を使った計算ができるようになり、基礎学力を身につけさせることを目的とする。

【講義概要】

基本的な電気の考え方、公式を理解する。公式を使った計算ができるようになり、基礎学力を身につけさせることを目的とする。

回	授業計画及び学習の内容
1	電流と電圧
2	電気回路・オームの法則
3	合成抵抗・直並列回路
4	キルヒホッフの法則
5	電力と電力量
6	直流回路と回路素子
7	前半のまとめ
8	中間試験
9	電流が作る磁界・磁気回路
10	電磁力
11	電磁誘導作用
12	静電気とコンデンサ
13	交流回路・ADコンバータ
14	後半のまとめ
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

本校診療放射線学科で専任講師として20年以上、数学・物理学・電気実験等を担当し、その後非常勤講師として、12年ほど独立行政法人教育センターや各種専門学校等で、数学・物理学・電気実験等を担当

【教科書・参考文献】

授業時にプリント配布，講義の際に紹介

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		3年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 必修	講義	応用英語 I		Tope Salami	有	2単位 30時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
- Staying updated with general and technology news from English news sources. - Reading, listening and implementing English technical documentation ”							
【講義概要】							
Classes will comprise: reading about general and technology related news topics. creating projects that require reading technology manuals and sometimes listening, homework to learn and reinforce technology vocabulary.							
回	授業計画及び学習の内容						
1	Introductions, English for IT, AI or Security Projects						
2	News Topic 1, Introduction to Software, Operating Systems, Project 1						
3	News Topic 2, Software Applications, IT Careers, Project 1						
4	News Topic 3, The Internet, People in IT, Project 1						
5	News Topic 4, Measurements, Programming Languages, Final Project 2						
6	News Topic 5, Computer Types, Components, Final Project 2						
7	News Topic 6, Peripherals, Networking, Final Projects Presentation						
8	News Topic 7, The Keyboard: Part 1 and Part 2, Project 3						
9	News Topic 8, Memory. Storage and Input Devices, Project 3						
10	News Topic 9, Removable Storage, IT Slang, Project 3 Presentation, Project 3						
11	News Topic 10, English for Electronics, Computer Ethics, Project 4						
12	News Topic 11, American IT companies, English for Programmers, Project 4						
13	News Topic 12, Introduction to Cryptocurrency, QA (Quality Assurance), Project 4						
14	News Topic 13, The Concise Guide to ITIL, Freelancing, Project 4						
15	Final Projects						
【成績評価方法】							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他 ()	合計	
割合	30%	40%	20%		10%	100%	
(補足)	・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。						
【教員紹介】							
My name is Tope Salami. I'm a Product Manager, developer and Teacher. I love to create engaging and fun classes.							
【教科書・参考文献】							
1. https://docs.github.com/en 2. https://platform.openai.com/docs/introduction 3. https://ethereum.org/en/developers/docs/ 4. https://stablediffusionapi.com/docs/							

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	応用英語Ⅱ	Tope Salami	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

- Staying updated with General and Technology News from English News Sources.
- Reading Manuals in English Overcoming the fear of reading English manuals.

【講義概要】

Classes will comprise: discussions about general and technology related news topics. creating projects that require reading technology manuals and homework to learn and reinforce technology vocabulary.

回	授業計画及び学習の内容
1	Introductions, English for IT, AI or Security Projects
2	News Topic 1, Introduction to Software, Operating Systems, Project 1
3	News Topic 2, Software Applications, IT Careers, Project 1
4	News Topic 3, The Internet, People in IT, Project 1
5	News Topic 4, Measurements, Programming Languages, Final Project 2
6	News Topic 5, Computer Types, Components, Final Project 2
7	News Topic 6, Peripherals, Networking, Final Projects Presentation
8	News Topic 7, The Keyboard: Part 1 and Part 2, Project 3
9	News Topic 8, Memory. Storage and Input Devices, Project 3
10	News Topic 9, Removable Storage, IT Slang, Project 3 Presentation, Project 3
11	News Topic 10, English for Electronics, Computer Ethics, Project 4
12	News Topic 11, American IT companies, English for Programmers, Project 4
13	News Topic 12, Introduction to Cryptocurrency, QA (Quality Assurance), Project 4
14	News Topic 13, The Concise Guide to ITIL, Freelancing, Project 4
15	Final Projects

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	Class participation	合計
割合	30%	40%	20%		10%	100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

My name is Tope Salami. I'm a Product Manager, developer and Teacher. I love to create engaging and fun classes.

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	一般常識 I	唐戸 民雄	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本的な計算力、一般的な漢字の読み、社会科系統・理科系統の基本的な知識を再確認する。

【講義概要】

言語事項の確認、社会科系統（地理・歴史・政治経済）、理科系統（物理・化学・地学・生物）などの基礎知識、就職試験、SPIなどでも出題される早さ、通貨算、鶴亀算などを確認する。毎回、確認テストを行う。

回	授業計画及び学習の内容			
1	言語事項の確認1	社会科系統1	理数系統1	確認テスト1
2	言語事項の確認2	社会科系統2	理数系統2	確認テスト2
3	言語事項の確認3	社会科系統3	理数系統3	確認テスト3
4	言語事項の確認4	社会科系統4	理数系統4	確認テスト4
5	言語事項の確認5	社会科系統5	理数系統5	確認テスト5
6	言語事項の確認6	社会科系統6	理数系統6	確認テスト6
7	言語事項の確認7	社会科系統7	理数系統7	確認テスト7
8	中間試験			
9	言語事項の確認8	社会科系統8	理数系統8	確認テスト8
10	言語事項の確認9	社会科系統9	理数系統9	確認テスト9
11	言語事項の確認10	社会科系統10	理数系統10	確認テスト10
12	言語事項の確認11	社会科系統11	理数系統11	確認テスト11
13	言語事項の確認12	社会科系統12	理数系統12	確認テスト12
14	言語事項の確認13	社会科系統13	理数系統13	確認テスト13
15	期末試験			

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

四半世紀にわたり、東京電子専門学校において、表現技法、一般常識を担当してきました。また、他の専門学校で論文作成を、都の職業訓練校でビジネス関係の科目を教えてきました。

【教科書・参考文献】

授業時にプリントを配付する。

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	一般常識Ⅱ	唐戸 民雄	無	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

基本的な計算力、一般的な漢字の読み、社会科系統・理科系統の基本的な知識を再確認する。

【講義概要】

言語事項の確認、社会科系統（地理・歴史・政治経済）、理科系統（物理・化学・地学・生物）などの基礎知識、就職試験、SPIなどでも出題される早さ、通貨算、鶴亀算などを確認する。毎回、確認テストを行う。

回	授業計画及び学習の内容			
1	言語事項の確認1	社会科系統1	理数系統1	確認テスト1
2	言語事項の確認2	社会科系統2	理数系統2	確認テスト2
3	言語事項の確認3	社会科系統3	理数系統3	確認テスト3
4	言語事項の確認4	社会科系統4	理数系統4	確認テスト4
5	言語事項の確認5	社会科系統5	理数系統5	確認テスト5
6	言語事項の確認6	社会科系統6	理数系統6	確認テスト6
7	言語事項の確認7	社会科系統7	理数系統7	確認テスト7
8	中間試験			
9	言語事項の確認8	社会科系統8	理数系統8	確認テスト8
10	言語事項の確認9	社会科系統9	理数系統9	確認テスト9
11	言語事項の確認10	社会科系統10	理数系統10	確認テスト10
12	言語事項の確認11	社会科系統11	理数系統11	確認テスト11
13	言語事項の確認12	社会科系統12	理数系統12	確認テスト12
14	言語事項の確認13	社会科系統13	理数系統13	確認テスト13
15	期末試験			

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

四半世紀にわたり、東京電子専門学校において、表現技法、一般常識を担当してきました。また、他の専門学校で論文作成を、都の職業訓練校でビジネス関係の科目を教えてきました。

【教科書・参考文献】

授業時にプリントを配付する。

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 必修	実習	プレゼンテーション	山際 能理子	有	1.5単位 30時間	
【授業の到達目標及びテーマ】						
<p>就職活動は、自分をプレゼンテーションする作業です。この授業は、プレゼンテーションの技術を身につけて自分を効果的に伝える方法を習得します。限られた時間の中で、効果的にアピールするためには伝わる法則があります。自分本位から相手本位に伝えるためには何が必要かを細かく学びます。カリキュラムは、理論を学び、実践し、検証し、再度挑戦するPDCAサイクルです。</p> <p>プレゼンテーションを実践し、採点評価しながら自己改善を目指します。</p> <p>ひとりよがりのプレゼンテーションから、相手を動かすプレゼンテーションにレベルアップして、今後の就職活動に活かせるようにする。</p>						
【講義概要】						
個人発表2回、チーム発表1回 合計3回のプレゼンテーションを実践します。毎回採点評価しながら自己改善を目指します。						
回	授業計画及び学習の内容					
1	オリエンテーション 授業概要のプレゼンテーション（目的、目標、ルール、プレゼンテーションとは何か） 伝えることの意味、伝わるための3つの伝達力					
2	①構成力をつける 内容の組み立て方を知る					
3	②発表力 感じよく伝えるための発表力をつける、話法を知る ③表現力 スライドの構図による印象度の違いを知る					
4	第1回 個人発表 3回の授業で理論を学び第1回の個人発表に入ります。					
5	テーマ「国民食はどっち？」 スライド5枚以上 発表時間は3分					
6	チーム作業 課題「自分の科をアピールする」KJ法～骨子を決定					
7	チーム作業 役割分担、スケジュール作成					
8	チーム作業 最終調整					
9	第2回 チーム発表 発表後の自己改善点をふまえ次に活かします。仕事はチーム作業です。就職後を見据え、チームでのプレゼンテーションに挑戦します。テーマに基づき、チームで情報の整理・収束、作業の役割分担を決め取り掛かります。納期を設定し、作業スケジュールを立て、協力する過程を実践します。 スライドは10枚以上 発表時間はチームで10分					
10	PDCA 問題点を洗い出し、解決策を考え 最終課題に取り組む					
11	自分のSWOTシート作成					
12	最終発表					
13	最終発表は、プレゼンテーションの集大成です。自己改善点の改題解決に向けて挑戦します。 3回目の自己発表、テーマ「自分」 スライド10枚以上 発表時間は5分					
14	まとめと総合演習					
15						
【成績評価方法】						
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	100%					100%
(補足)	<ul style="list-style-type: none"> 成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 レポートや自習課題は必ず提出すること。 					
【教員紹介】						
情報処理科、電子技術科、臨床工学科において、ビジネスマナーを担当。学校での講義だけでなく、企業での研修や講演も行っている。サービス接客検定本の著者。						
【教科書・参考文献】						
パワーポイントのスライド、配布プリント						

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	就職対策 I	鈴木俊	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

自分にあった職に就くために行うとよい「自己分析」と「自己PR文の作成」の基本的な方法を習得することを目標とする。また、就職活動の方法を身につけること、必要となる準備を行うことを目標とする。

【講義概要】

各回、テーマに沿ったグループワーク、グループディスカッションを実施する。各回のワークに参加することを課題として、ワークを通じて記入したシートを提出する。また、レポート課題を提出とする。

回	授業計画及び学習の内容
1	自分の「モノの見方」を考える
2	より良い就職とは何かを考える。職業選択理論
3	自分が就職に求めるもの考える
4	トレードオフを考える
5	人口減少・少子高齢化
6	中間試験
7	ES（エントリーシート）何をどう書く
8	ES（エントリーシート）の改善例
9	自己PR文章作成ワーク
10	自己PRポイントネタの注意点
11	履歴書作成ワーク
12	ビジネスメールの書き方
13	伝わりやすい文章の構成を考える①（論理の構成）
14	伝わりやすい文章の構成を考える②（グルーピング）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	40%		20%	40%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

インフラ（NW、サーバー）のIT会社にて、営業、人事・労務管理、求人・採用業務に従事

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象		
工業専門課程	高度情報システム科	2024	3年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	講義	就職対策Ⅱ	鈴木俊	有	2単位 30時間

【授業の到達目標及びテーマ】

自分に合った仕事・働き方・就職先（志望企業）を考える力をつける。その上で、志望動機文章の作成、採用面接のための準備・練習を行うことを目標とする。

【講義概要】

各回のテーマに関するワーク（個人ワーク、グループワーク、グループディスカッション）を実施する。ワークを通じて作成したシートを課題として提出する。また、レポート課題を提出とする。

回	授業計画及び学習の内容
1	会社選びのものさし①
2	会社選びのものさし②
3	市場規模とは何か
4	業界職種研究
5	法人の種類（会社以外の選択肢）
6	雇用形態
7	求人広告の見方
8	中間試験
9	グループディスカッション選考の対策
10	面接対策
11	個人面接ロールプレイ
12	キャリアプランを考える
13	不確実性の高い時代のキャリアの作り方
14	キャリアの転機、危機の乗り越え方
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	40%		20%	40%		100%

（補足）

- ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

インフラ（NW、サーバー）のIT会社にて、営業、人事・労務管理、求人・採用業務に従事

【教科書・参考文献】

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2024		3年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
一般教育 必修	講義	企業会計Ⅱ		木村和也	有	2単位 30時間	

【授業の到達目標及びテーマ】

財務と会計は企業にとって非常に重要です。経営者が自社の経営判断を行ったり、第三者が企業の状況を分析するうえで必要となる知識を簿記や財務諸表の分析を通して学んでいきます。

【講義概要】

本コースでは、財務と会計に必要な専門知識である財務諸表から企業分析ができる能力を学んでいきます。会計や財務に関する正しい知識やスキルは、企業やビジネスにとって必要な概念であると同時に、これらを学ぶことはみなさんの人生にとっても有意義なものになるでしょう。

回	授業計画及び学習の内容
1	オリエンテーション
2	財務諸表とは
3	貸借対照表①
4	貸借対照表②
5	貸借対照表③
6	損益計算書①
7	中間試験
8	損益計算書②
9	キャッシュ・フロー計算書①
10	キャッシュ・フロー計算書②
11	財務諸表分析①
12	財務諸表分析②
13	財務諸表分析③
14	財務諸表分析（演習）
15	期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	80%	10%		10%		100%

(補足)

- ・成績は100点を最高とし、60点を及第点とする。
- ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
- ・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

税理士・行政書士・介護福祉士の資格を保有。現在は、税理士事務所を立ち上げて活動中。企業経営実績や介護福祉事業所の運営経験などがあり、これらを活かした「実務に役立つ授業」をしていきたいと思っています。

【教科書・参考文献】

ビジネス会計検定試験公式テキスト3級

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象
工業専門課程		高度情報システム科	2024		3年 通年
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
一般教育 必修	実習	体育実習Ⅲ	高度情報システム科 担当教員	無	1.5 単位 30 時間

【授業の到達目標及びテーマ】

学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。
学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。
心身の健全な育成を目指しています。

【講義概要】

この授業は学園祭（準備2日間、学園祭2日間）の参加を以て、評価します。

回	授業計画及び学習の内容
1	
2	学園祭準備（1日目、2日目）
3	
4	
5	学園祭（1日目）
6	
7	
8	学園祭（2日目）、後片づけ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合					100%	100%

(補足)
・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。
・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。
・レポートや自習課題は必ず提出すること。

【教員紹介】

【教科書・参考文献】